

| | | | |
|-----------|--|------|---------|
| 時間割コード | 774315 | 開講区分 | 通年 |
| 開講科目名 | コミュニケーション支援学特論 | 定員 | |
| 開講科目名(英) | Seminar in Communication Disorders | 単位数 | 12単位 |
| 場 所 | 金沢校 | 年次 | 2～3年 |
| 担当教員 | 大井 学、荒木友希子、吉村優子(金沢校) | 授業形態 | ゼミナール形式 |
| 講義題目 | コミュニケーション支援学特論 | | |
| 開講言語 | 日本語 | | |
| 授業の目的 | 本特論では、コミュニケーションへの臨床的なアプローチを通じて相互理解の深まりと心の問題の解決をはかる支援技術を探索するために、関連する諸領域の研究を広く展望して、学生の研究テーマの設定、研究計画のデザインに資することを目的とする。 | | |
| 学習目標 | 学生は、自らの研究テーマの設定・洗練、研究デザインの洗練をはかることができるようになる。 | | |
| 授業計画 | <p>(大井 学) 高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、特異的言語障害、注意欠陥／多動性障害などを示す事例を研究対象とする。これらの症例が乳幼児期から青年期に至るまでに示すコミュニケーション障害の性格の定量的・定性的把握、認知機能および感情機能などコミュニケーション障害の背景基盤の解明をめざし、研究指導を行う。</p> <p>(荒木友希子) 子どもと大人のコミュニケーションならびに子供同士の仲間コミュニケーションの促進技法の開発、および効果測定にまたがって研究指導を行う。</p> <p>(吉村優子) 上記研究指導の補助を行う。</p> | | |
| 授業外における学習 | 学生の研究テーマの設定にかかわる先行研究をオンライン検索し、講読すること。 | | |
| 教科書・参考書等 | そのつど、最新の文献を指導教員より配付する。 | | |
| 成績評価 | 2/3 以上の出席を必須条件とし、ゼミナールでの発表、質問態度などをもとに合否判定を行う。2年間で 12 単位を与える。 | | |
| コメント | | | |